

細谷小学校の目指す児童像



やさしく
つよく
かしこく



細谷小学校学校だより
令和3年3月発行第11号
宇都宮市立細谷小学校
校長 浪花 なをみ



1年間大変お世話になりました



まもなく令和2年度が幕を閉じようとしています。この1年間を振り返りますと、年度始めから長期に渡っての臨時休業があり、6月の学校再開後は、新しい生活様式を取り入れながら、新型コロナウイルスの感染防止に努めてまいりました。様々な行事が中止になったり、形を変えて行ったりする中においても、自分の目標をしっかりと立て、あきらめずに前向きに取り組んだ細谷っ子たちの頑張りは見事でした。そして、子供たちの溢れんばかりの笑顔を見て、我々教職員が子供たちから得るエネルギーの大きさを、改めて実感いたしました。

この1年間、保護者の皆様のご負担・ご苦労はいかばかりかとお察し申し上げます。まだまだ先が見えない日々が続きますが、学校と家庭、地域が心を一つにして、子供たちが安心して笑顔で学校生活を過ごせるよう、今後も“チーム細谷”の結束を強めていけたらと思っております。1年間大変お世話になりました。



2月24日(水)、5年生が中心となって『6年生を送る会』を行いました。今年は、例年行っていた体育館での集会や縦割り班でのゲームができないため、5年生が知恵を絞って、全体的な会の進行は放送室から生放送で行い、事前に録画した映像を織り交ぜながら、みんなが楽しめる活動を工夫してくれました。まず、細谷レンジャーが登場し、場を盛り上げました。続いて、3年生、4年生、5年生、6年担任の先生の順で「6年生との思い出」や「さすが6年生と思ったこと」などについて、事前のインタビュー映像とともにクイズが出されました。さらに動画により、クラスごとに6年生への感謝の気持ちが伝えられ、6年生からも下級生にエールが送られました。同じ空間に集まれなくても、絆を感じる心温まる会となりました。



プログラミング学習

今年度から、新学習指導要領に基づく「プログラミング学習」を行っています。これは、社会の変化を見据えた新しい教育内容で、プログラミングの技能のみでなく、意図する活動を実現するために、どのような動きが必要かを組み立てたり修正したりする思考力を育むことも目的としています。今回は、4年生が、プログラミングソフトを用いてロボット型教材を動かすという課題に挑戦しました。ロボットに意図する動きをさせようと試行錯誤する姿は、真剣そのものでした。



令和2年度 卒業式



令和2年度第69回卒業式は、式典の内容の精選などの新型コロナウイルス感染防止対策を講じながら、3月18日(木)、無事挙行することができました。

堂々と胸を張って歩く姿、卒業証書を受け取る凛々しい姿、そして心を込めて発した「別れのことば」と式歌。卒業生としての見事な態度に、その場にいた誰もが感動しました。

学校長式辞では、東日本大震災で被災した多くの人々に勇気を与えたことでも知られる「アンパンマンのマーチ」の『何のために生まれて、何をして生きるのか』という歌詞を引用して、生きていくことの意味を卒業生に問いかけました。そして「人は、幸せになるために生まれてきて、周りの人を幸せにするために生きるのです。」と生きることの尊さを伝え、さらに「周りの人を幸せにできる人になって欲しい。また、周りの人を幸せにすることで、あなた自身も幸せになって欲しい。」と、最後のメッセージを送りました。

また、式が終了した後に、サプライズで、当日参加することができなかった在校生と全職員より、“メッセージ For You”と題し、本校を巣立っていく最後の日が思い出の日となるよう、ビデオレターを送りました。

6年生が幸せな人生を歩むことができるよう、教職員一同ずっと、ずっと、ずっと、応援し続けていきたいと思えます。

